

学生とシニアの対話 in 九州大学 2022 報告書

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会 (SNW) 世話役 山崎智英



九州大学 伊都キャンパス

目次	ページ
はじめに	
1. 講演と対話会の概要	1
2. 対話会の詳細	2
3. 参加シニアの感想	3
4. 学生アンケート結果の概要	4
5. 別添資料リスト	4

はじめに

本年度は、藤本研究室の学生世話役と調整しながら対話会を実施した。

授業とは関係なく原子力専攻の学生有志による対話会で、基調講演の要望がなかったことから、2コマ対話会を実施した。

対話会の事前質問では、原子力やエネルギーなどに関する事前質問が多く、シニアから現在のエネルギー事情、原子力を取り巻く状況などについて対話を行った。

1. 講演会と対話会の概要

(1) 日 時

- ・ 基調講演：なし
- ・ 対 話 会：2022年12月14日（水）13:00～16:20

(2) 場 所

- ・ 対話会：九州大学伊都キャンパスウエスト2号館931号室

(3) 参加者

- ・ 学 生：九州大学工学部エネルギー科学科エネルギー量子理工学コース
学部4年生1名、修士1年生3名、修士2年生1名（合計5名）
- ・ シニア：金氏顯、古藤健司、山崎智英

(4) 基調講演概要

- ・ なし

2. 対話会の詳細

(1) 開会あいさつ

SNW九州代表幹事：金氏顯

私達は日本原子力学会に2006年に設立したシニア連絡会（SNW）の会員です。私達は原子力プラントメーカーや電力会社、原子力関係研究機関などで技術者として働き、その知識経験を生かして退職後も次世代を担う皆さんたち若者に原子力を始めエネルギー問題に関する理解活動をボランティアとして毎年全国約20校の大学や高専で「対話会」として行っています。

九州内でも5校で開催していますが、九州大学では原子力を専攻する学生なので先輩後輩ではありますが、原子力という同じ土俵でエネルギー危機や原子力を取り巻く様々な課題や将来展望、また皆さんの将来に関する話もしたいと思います。今日は2時間余りですが、真剣でかつざっくりばらんな質疑応答、意見交換を行いましょ。私たちシニアはついついしゃべりすぎます。皆さんは負けないようにドシドシ発言してください。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です、よろしくお願ひします。

(2) 対話の概要

対話を活性化するために、「ウクライナ情勢とエネルギー危機、これを受けて原子力の役割」を事前配布し、学生から提出された質問とシニアの回答に沿って対話を行った。

テーマ

- ・ 特にテーマは設定せず、原子力全般について対話を実施した。

対話内容

①原子力に関するメディアの報道について

大学に入って原子力を学び始めて知識がある事柄について特に違和がある。マスコミはマイナスのこししか言わない。エネルギー構成に原子力があれば、なぜ原子力があるのだ

というようなことしか言わない。一般の方に原子力を理解してもらうには、メディアの方に理解していただければならない。

②エネルギーの地産地消という、システム自体の大転換はできないのか

電気を直流送電で首都圏へ何兆円もかけて送電しようとしている。この状況は地産地消の逆である。

SMRは地産地消には良いのかもしれないが、原子力発電の立地には難しい面がある。コストも厳しいところがあるのではないのか。

③原子力発電所の運転期間について

原子力発電所は定期検査を行い、劣化評価を行うとともに交換可能なものについては交換している。このため、安全性への影響は少ない。事業者は申請を行い原子力規制委員会の審査に合格した発電所が運転をすることができるルールとしようとしている。一般の方は原子力の寿命は40年という報道に感化されている。

④再処理工場の稼働が何度も延期となっているが、実際に稼働できるのか。

原子力発電所が運転を継続するためには日本原燃の再処理工場が運転開始することがマストであり、このための取り組みをオールジャパン体制で支援している。

⑤原子力に未来があるのか。

年末で実行計画ができる予定。原子力政策の転換が図れる予定であり未来がある。

現在のところ、新增設はないが、新規規制基準対応工事等が行われており、今であればサプライチェーンも失われていない。新規原子力はないが、新規規制基準対応工事があり、今であれば残っている。革新軽水炉を設置することは可能。

(3) 講評

時間の制約があったため、実施せず。

3. 参加シニアの感想

【金氏顕】

3年ぶりの対面開催となり、久しぶりに九大伊都キャンパスに出かけた。学生は原子力専攻の5人(M2、M1(3人)、B4)。同じ原子力という土俵上での対話会なので原子力に対する思いや知識はほぼ同じで、時代と経験が違うだけ。従って、原子力のメディア報道や原子力理解活動など社会的な話、原子力発電の運転期間、再処理施設の操業遅れ、また岸田政権の原子力推進政策など原子力の課題という学生の事前質問には本音で意見交換できた。

学生から、原子力に未来はあるか？原子力業界は転職できるか？などの質問をきっかけに、5人の将来希望する進路を一人ずつ聞きながら、シニア3人が原子力最盛期だった現役時代の体験談、そして今から原子力の明るい時代が来るので世論など気にせずに原子力分野の研究開発、建設にわき目を振らず全力を挙げて欲しいと、エールを送った。

なお、対話会の前に前九工大で対話会を受け入れてくれた機械系教授が今春から九大機械の伝熱研究室の主任教授で異動されたのでお会いし、来年度に九大機械系学生との対話会の可能性を打診した。また、対話会終わって古藤さんと原子力系の准教授にお会いし、量子物理学科の3、4年学生との対話会の可能性も相談した。いずれも講義の一環として開催できれば学生人数は数十

人以上の規模になる。今日のように原子力系の少人数の対話会はぜひ継続し、大人数の対話会も加われば地元としても OB としても大変楽しみだ。

【古藤健司】

本年度の対話会は対面で実施されました。対面ですとやはり、学生とシニア間の心理的な距離感も近くなり、親近感と同時に緊張感も増してくることを実感しました。参加学生は炉物理・伝熱流動・核燃料系の原子力分野専攻の 5 名でしたので、原子力産業の現状と将来、原子力を取り囲む社会環境については共通した認識を持ったディスカッションとなりました。電力会社 OB、原子力企業 OB シニアの経験談・進路へのアドバイスは原子力学を専門と志す学生諸君に大変有意義な対話会であったと確信いたしました。今回の対話会、B4 の T 君にファシリテータをやってもらいましたが、上手に対話会を取り仕切ってくれたことが印象的でした。九大教員 OB として嬉しく思いました。

【山崎智英】

九州大学は九州で唯一の原子力系の大学であり、対話をしていても同じような認識であったのではないかと思います。学生の皆さんは、今回の対話を通じて現在の原子力を取り巻く状況を正しく理解したのではないかと思います。

4. 学生アンケート結果の概要

対話会に参加した学生 5 名全員からアンケートを回収した。

参加学生は、学部 4 年 1 名、修士 1 年 3 名、2 年 1 名。

対話内容で得られたこととして、新しい知見が得られたが 5 名、マスコミと対話会の情報に違いがあったが 1 名、自分の将来の進路の参考になったが 2 名。また、カーボンニュートラル政策については、実現した場合にそれまでに払った犠牲が大きくなりそう、火力発電への依存は当面続く、我が国と他国と違い資源のない国であるため世界と歩調を合わせる必要はないとのアンケート結果が得られた。(詳細は別添資料参照)

5. 別添資料リスト

- ・事前配布資料：世界主要国のエネルギー政策の最新動向
～脱炭素・欧州発エネルギー危機の中で日本の選択は？～
- ・アンケート結果

(報告書作成：山崎智英 2023 年 1 月 16 日)